



特集1 篠目町の人たちのチャレンジ



自主防犯パトロール隊

リーダー 増田秋夫さん

増田秋夫さん

●**主な活動は？**
パトロールです。青パトは、午前・午後と小・中学生の登下校時間に合わせて、3台のパトロールカーで、また、夜間には、月2回5班で町内全域を拍子木を鳴らしながら歩くパトロールをしています。

●**犯罪が減ったのはどうして？**
町内全体で犯罪抑止に取り組んだからだと思っています。

●**苦労は？**
初めころは「うるさい」と怒られたこともありましたが、今

では顔を合わせれば、あいさつしあえるようになりました。

●**活動を続ける秘けつは？**
無理をしないこと。パトロール隊に、入るのも出るのも自由。活動への参加も自由です。

●**今後は？**
犯罪抑止モデル地区の指定がはずれると、犯罪が増えてくると聞いています。自分たちのまちは、自分たちで守ってきたいので、犯罪者を寄せ付けない地域を目指し、これからも活動に力を入れていきます。

地域の防犯意識の向上

篠目町では、各世帯で防犯意識が向上してきたことが、犯罪減少の要因になっていました。少しの手間・少ない負担で安全が得られる対策がたくさんあります。

地域の防犯力の強化

地域の防犯活動として、「夜間パトロール」、「二戸一灯運動」、「あいさつ・声かけ運動」を広めています。「一戸一灯運動」、「あいさつ・声かけ運動」は、誰でも・すぐにでもでき、少ない負担で、地域の防犯力を強化します。

防犯に関する意識調査結果

防犯対策	実施率 (%)		
	昨年9月	今年2月	伸び率
短時間の外出でも玄関や窓に鍵をかける	91.4	95.0	3.6
在宅時でも玄関や窓に鍵をかける	55.8	71.3	15.5
夜間に門灯・玄関灯をつける	48.8	53.4	4.6
センサーライトをつける	37.0	37.7	0.7
庭木を低くして見通しを良くする	35.9	37.0	1.1
自転車にツーロック(2か所施錠)をする	11.3	21.1	9.8

■**防犯に関する意識調査結果**
●**対象** 80世帯
●**結果** 左表の各防犯対策で実施率が伸び、家庭での防犯対策が進んでいます。

夜間パトロール

地域の安全を、警察官だけでなく守るのは限界があります。そこで、同町では約40人で「自主防犯パトロール隊」をつくり、青パト(※)を使ったり、拍子木を鳴らしたりしながら、夜間パト



拍子木を鳴らしながらの夜間パトロール



町を巡回する青パト

ロールをしています。しかし、都市化による地域コミュニティの低下、職住分離など、パトロール活動の維持・拡大には多くの課題があります。※青パト↓青色回転灯のついたパトロールカー。

青色防犯灯の評価結果

評価1 設置効果として、防犯への関心が高くなった

	昨年9月	今年2月	増減
大に感じる	14.8%	19.0%	+4.2%
やや感じる	28.1%	38.4%	+10.3%
どちらともいえない	28.9%	26.7%	-2.2%
あまり感じない	14.6%	10.3%	-4.3%
全く感じない	8.3%	3.8%	-4.5%

■**青色防犯灯の設置**
昨年7月以降、車上ねらいなどの多く発生する地域に約100基の青色防犯灯を設置しています。篠目町での青色防犯灯に対する評価は、左表のとおりです。※青色防犯灯は、犯罪抑止効果が期待できるものとして、平成18年から、全国各地で設置されるようになりました。



青色に光る防犯灯

防犯対策の持続

市内では、昨年から再び犯罪多発傾向にあります。4月末の犯罪発生件数は、前年同期比44.8%増となっています。しかし、篠目町のように、住民の防犯意識が高まれば、犯罪の発生を抑えることができます。今後も篠目町では、「無理・無駄のない防犯対策の推進」をキーワードに、町内に暮らすすべての人の防犯意識向上に取り組みます。

二戸一灯運動

犯罪者は暗い場所を狙います。犯罪に強い明るいまちづくりを目指すために、各家庭の玄関灯、門灯を朝まで点灯します(※)。街路灯、防犯灯で足りない部分を補っています。

効果

●部活動や塾帰りの子どもを狙う不審者を防ぎます。
●仕事帰りの女性を狙うチカン、ひったくりを防ぎます。
※20W電球を1日10時間点灯しても、1か月の電気代は、缶コーヒー1本程度です。

あいさつ・声かけ運動

犯罪者は、他人の行動に無関心な地域を好み、逆に地域住民の視線を恐れるようです。そこで、町内でのあいさつ・声かけをして、地域から犯罪者を締め出そうと心がけています。家の出入り口に懸垂幕(けんすま)を掲げ、運動を推進しています。



多くの家庭で掲げられている懸垂幕